「『告知で妊婦に動揺も 胎児超音波検査』の記事に接して」へのコメント

「『告知で妊婦に動揺も 胎児超音波検査』の記事に接して」を目にした数人のメル友から、早速コメントをいただいたので、参考までにお目通しください。

２００６．３．１２．　阿部幸泰

①第一子については告知はしてもらわなくて結構かなと思います。

ただし、既に障害児を抱えている家族にとっては、次の妊娠は非常にセンシティブです。

否応なく出生前検査は気になります。

どこまでやるのかは人それぞれだと思いますが、医師のレベルも色々でしょうから、大きな病院で、遺伝科のドクターと小児科のドクターとの連携や、家族に対してメンタルケアのできるような状況下は欲しいです。

地域の総合病院では厳しいかな。やはり大学病院とかになっちゃうかも。

ＣｄＬＳの原因遺伝子が２年前に発見され（出現率５０％程度の責任遺伝子を「発見」というのか、素人ながら疑問は残るのですが。）、ＣｄＬＳ　Ｊａｐａｎの役員の間でも「出生前検査」については賛否両論です。

アメリカの財団でも同様に。アメリカは中絶を許さない宗教観もありますし。

日本人夫婦で２人とも障害児で３人目は遺伝子検査受けた方も。

私的には、検査を受けても受けなくても「結果は変わらない」と思います。

仮に、デランゲだと確定診断されても治療のしようがないのだし。

中絶してもしなくても、母親は人生に大きな問題を抱えます。多分。

②確かに世の中は科学技術の進歩等もあって暮らしやすくなってきました。

しかし、そのことは一方では人間的な感情や思考を持つことを否定し、全てが合理性を重んじることが最優先されるようになったように思います。

では、自分にとって不都合なこと（嫌なこと）を避けることが合理的な選択あり、人間

として進化したと言えるのでしょうか？

答えは当然ＮＯなのでしょう。

生や死を、人間ごときが独りよがりの判断で結論付けるのはおかしいと思います。

やはり、人間にはそれぞれ神のみぞ知る運命のようなものがあって、それを人間は真摯に受け止めるべきなのでしょう。

③＞周りが勝手に「不都合だろう」と判断して、一つの生命の存在を左右することだけはあってはならないと思う。

この記事を読んで最初に感じたのは、夫々の立場にとって不都合のコメントばかりで本当に考えないといけないのは、生命をどう育み各々の立場でどう係っていけるか、その想いがあってこその課題を検証していくという配慮が欠けている様に思い、報道記事を書かれた方が何を伝えたかったのか、生まれてこようとする子供の気持ちを考えると本当に悲しくなりました。

＞それぞれが、何らかの不都合を抱えながらも生きていることが「普通」と認め合う世の中であって欲しいし、だからこそ、共に生きる過程で互いに輔け合うことを重視する人間社会であって欲しいと思う。

最近、日本人の生き方についての記事が多いですね。

また格差社会についても良く話題になりますが、他人と比べる事で自分の今を確認しようとする、その意識を助長しようとする報道が多い様に感じます。

④敢えて不幸を選ぶ人生は誰も望まないでしょう。

すべて、自分に都合良く、幸せを選び取ったと思えても指の間からザーザーと落ちて行きますよ。

人生は選べません。与えられるものだと思います。受けとめ味わいながらです。

負と思える中に、しみじみと生きる意味を感じられるものだと思います。

人生を旅によくたとえますが、受けいれられない事を、受けとめ越えていける自分への旅だと解釈しています。